

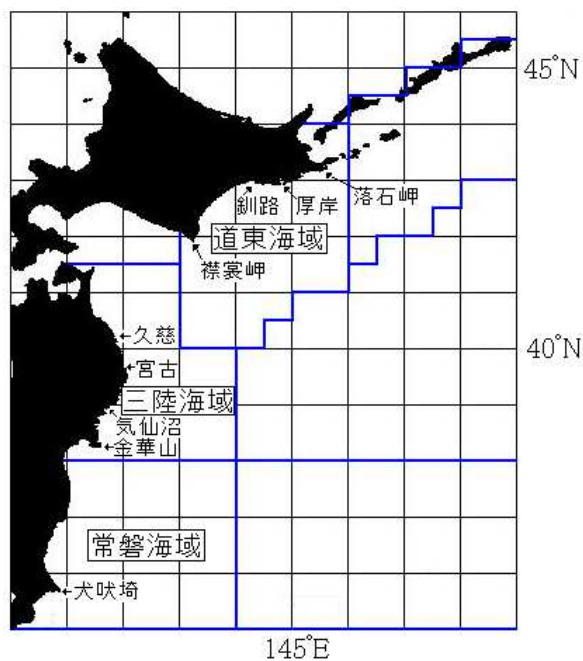
平成29年度 第7回サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2017年11月中旬～12月下旬)のポイント

来遊量

- ・道東海域は、低位水準で終漁となる。
- ・三陸海域では、11月中旬は低位水準で減少する。
- ・常磐海域では、11月中旬は低位水準であるが増加する。



海域の名称

問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 漁海況部
担当：渡邊、松尾
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881
当資料のホームページ掲載先URL
<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

平成29年度 第7回サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2017年11月中旬から12月下旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

11月中旬は、低位水準で減少し、終漁となる。

(2) 漁場

襟裳岬沖に漁場が残る。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

11月中旬～12月上旬は低位水準で減少する。12月中旬は断続的な来遊となる。12月下旬は来遊量が少なく終漁となる。

(2) 漁場

11月中旬は三陸北部～南部が、11月下旬～12月中旬は三陸南部が漁場となる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

11月中旬は低位水準であるが増加する。11月下旬～12月中旬は低位水準で減少する。12月下旬は断続的な来遊となる。

(2) 漁場

11月中旬～12月上旬は常磐北部～南部が漁場となる。12月中旬は、常磐南部が漁場となる。12月下旬は、漁場は形成されない。

2. 予測の概要

海 域		11月中旬	11月下旬	12月上旬	12月中旬	12月下旬
道東海域	来遊量					
	動向	低位減少				
	漁 場	襟裳岬沖				
三陸海域	来遊量					
	動向	低位減少	低位減少	低位減少	断続的	
	漁 場	北部～南部	南部	南部	南部	
常磐海域	来遊量					
	動向	低位増加	低位減少	低位減少	低位減少	断続的
	漁 場	北部～南部	北部～南部	北部～南部	南部	

3. 漁況の経過概要（10月下旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、前旬を上回ったが、低位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、道東海域における来遊量は、10月下旬の後半に増加した。

(2) 漁場

道東海域では、落石南沖に漁場が形成された。主漁場は、道東海域よりも南東側および道東海域よりも南側（三陸海域の東側）であった。

道東海域の落石南沖の20海里付近（11℃）では、31日夜に大型船1隻と小型船30隻程度操業し、大型船で29トン、小型船で平均28トン漁獲した。

道東海域よりも南東側の落石南東沖の220海里付近（15～18℃）では、27～30日夜に大型船が数隻操業。最高60トン程度、平均24トン漁獲した。

道東海域よりも南側（三陸海域の東側）の落石南南東140海里～久慈東175海里～宮古東120～160海里～金華山東200～220海里付近（11～19℃）では、大型船数隻～40隻程度と小型船が操業し、大型船で数トン～35トン程度漁獲した。

(3) 魚体

道東海域では、体長28cm以下が主体であった。道東海域よりも南東側および道東海域よりも南側（三陸海域の東側）では、体長29～30cmモードと25～27cmモードであった。体長29cm以上の魚の体重は110～130g台が主体。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した三陸海域における来遊量の水準は、前旬を下回り、前年並の低位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、三陸海域における来遊量は、10月下旬の後半に増加した。

(2) 漁場

三陸海域では、釜石東～金華山南東沖に漁場が形成された。

釜石東～金華山南東沖の20～30海里付近（15～17℃）では、大型船数隻～20隻程度と小型船が操業し、大型船で数トン～15トン程度漁獲した。

(3) 魚体

三陸海域では、体長29～30cmモードと25～26cmモードであった。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した常磐海域における来遊量の水準は、前旬および前年を上回ったが、低位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、常磐海域における来遊量は、10月下旬の後半に増加した。

(2) 漁場

常磐海域では、金華山南東～小名浜東沖に漁場が形成された。

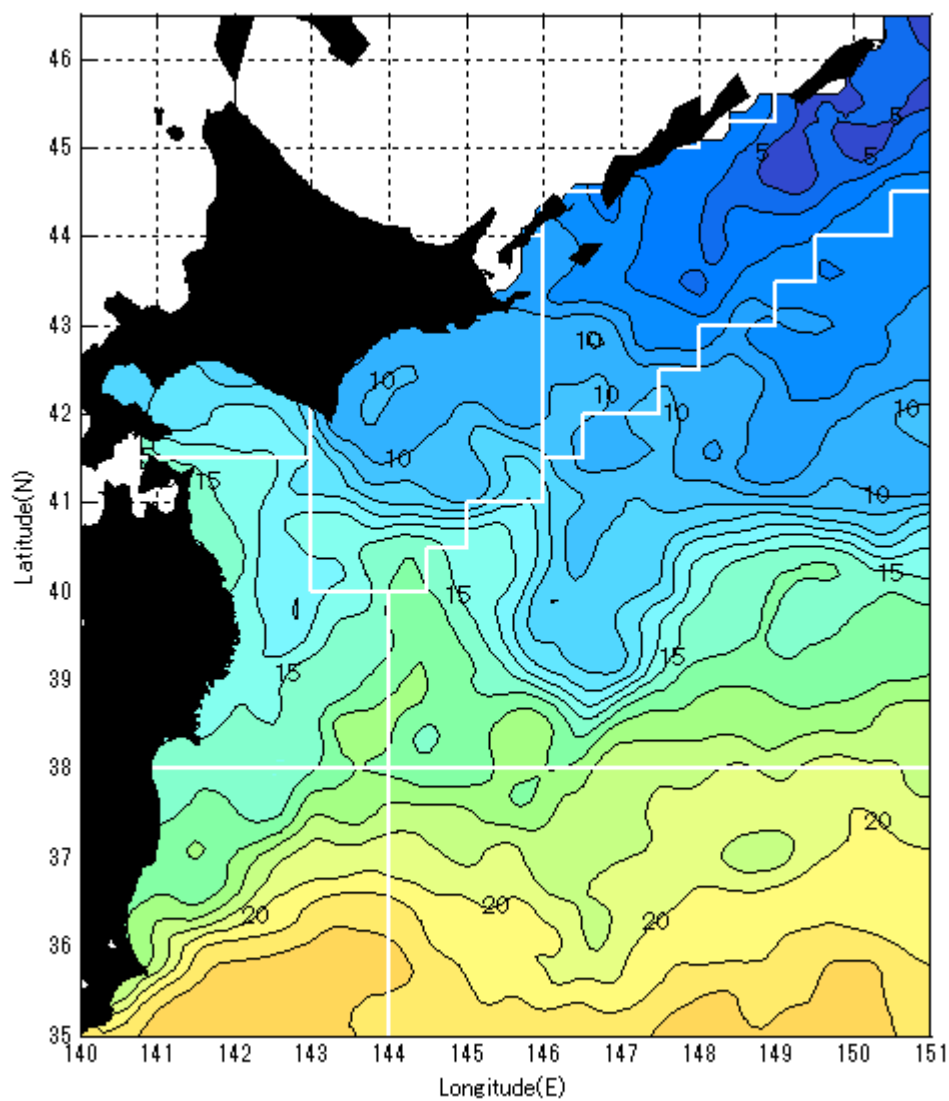
金華山南東40海里～小名浜東沖の60海里付近（13～16℃）では、26日夜以降、大型船数隻～15隻程度と小型船が操業し、大型船で数トン～15トン程度漁獲した。

(3) 魚体

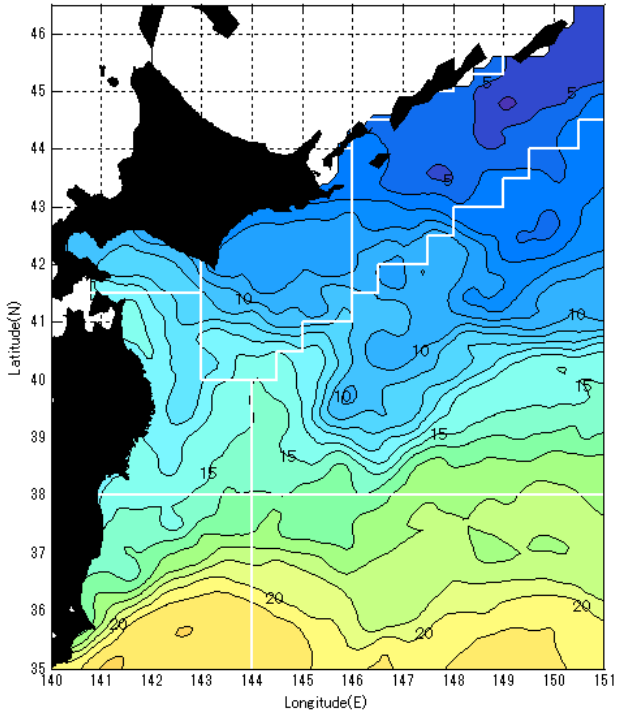
常磐海域では、体長29～30cmモードと25～26cmモードであった。

4. 予測水温分布図

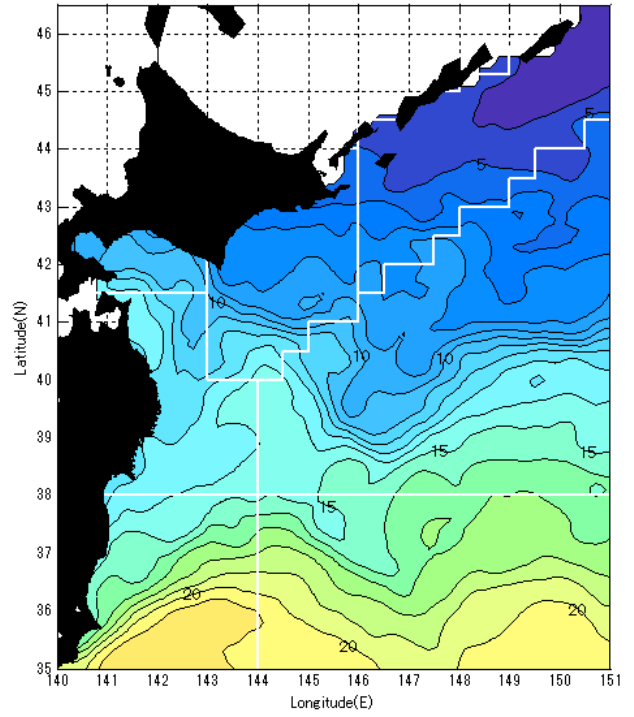
11月中旬予測表面水温分布図



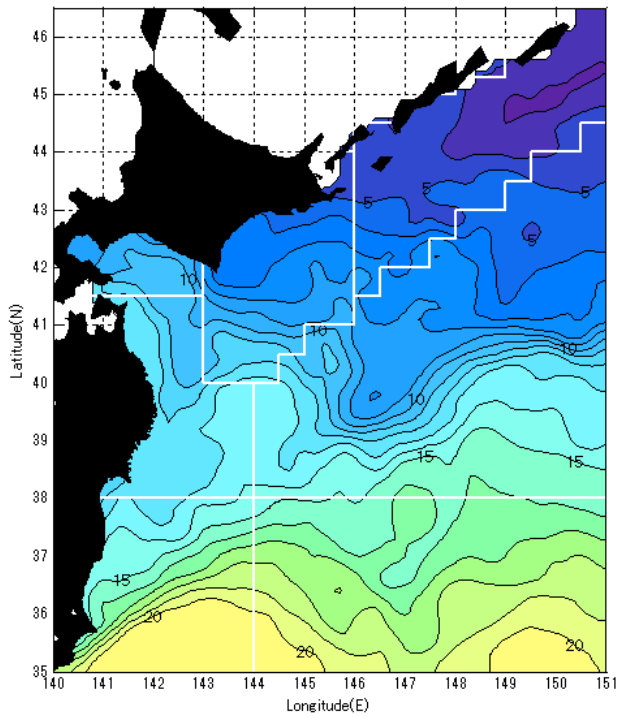
11月下旬予測表面水温分布図



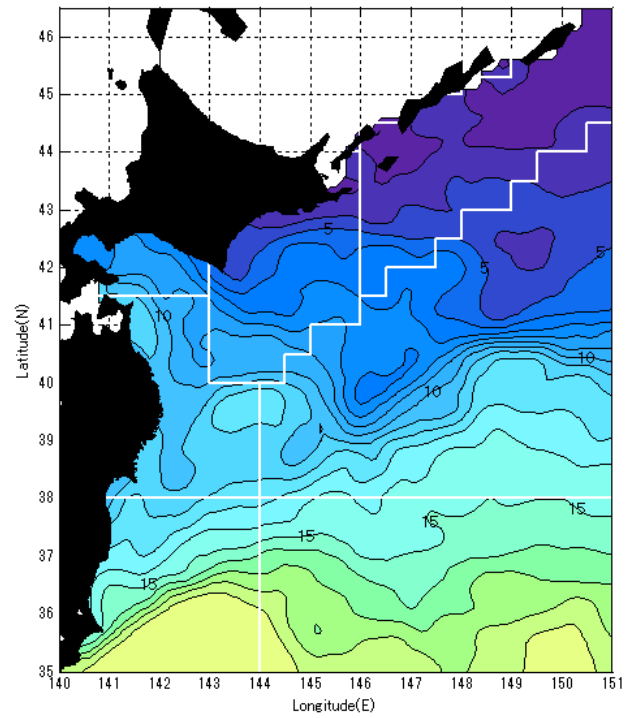
12月上旬予測表面水温分布図



12月中旬予測表面水温分布図



12月下旬予測表面水温分布図



参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
---	--